



## お湯をわかすとなぜ水の量が減るの

### 水が水蒸気になって蒸発する

やかんなどでお湯をわかすとき、水の温度はしだいに上がっていき、やがて、やかんの底からポコポコと音をたてながら、あわが上がり、水面があわだち、わきたつようになります。やかんの先から、湯気がさかんに出るようになります。このようすを、水がふっとうしているといいます。

やかんの水がふっとうしているときは、水が水蒸気になって、やかんの口から出ていきます。それで、やかんの水の量が減り続きます。

水がふっとうすると、いくら熱し続けても、それ以上温度は上がりません。ふつう、水がふっとうする温度は100℃です。

### 水はふっとうしなくても蒸発する

洗たく物を干しておくで、だんだんかわいてきます。これは、洗たく物の中の水が蒸発して、空気中に出ていくからです。

机の上にこぼした水がかわいたり、水たまりの水が、いつのまにかなくなったりするのも、水が蒸発しているからです。

このように、水はふっとうしていないときでも、水の表面では、たえず蒸発が起きています。（監修・小川 格）

